令和４年度　第３回あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議　摘録

１　日時：令和５年２月 10 日（金）13 時～14 時 40 分

２　開催場所：麻生区役所　第１会議室（オンライン併用）

３　出席者

（１）　委員

会　　場：吉松委員長、村井委員、岡倉委員、鈴木委員、森委員、吉垣委員、河村委員

オンライン：伴委員、増田委員、岡部委員、小山委員、佐野委員、依田委員、高橋委員

（２）　事務局

滝口事務局長、大塚地域みまもり支援センター副所長、福川地域支援課係長、宮川高齢・障害課長、後藤保護課長、高橋保育所等・地域連携担当課長、西泉企画課課長補佐、齊藤生涯学習支援課長、藤原地域ケア推進課長、船山地域ケア推進課係長、上原地域ケア推進課職員

（欠席）野口児童家庭課長、泉衛生課長、佐藤危機管理担当課長、長瀬地域ケア推進課主任

４　次第

１　開会

事務局説明

２　議事

（１）麻生区地域福祉計画について

①第６期進捗状況について

②第７期計画策定スケジュールについて

③次期計画策定に関する意見交換

（２）地域包括ケアシステム推進に向けた取組について

あさお希望のシナリオプロジェクトの進捗状況について

（３）その他

３　閉会

【配布資料】

委員名簿

座席表

資料１　第６期麻生区地域福祉計画進捗状況

資料２　第７期麻生区地域福祉計画策定スケジュール

資料３　次期計画策定に係る検討事項について

資料４　各区福祉計画体系

参考資料　あさお希望のシナリオ　活動報告会

５　公開・非公開の別　　公開

6　傍聴者　　０名

7　議事摘録

1　開会

2　議事

（1）麻生区地域福祉計画について

①　第６期麻生区地域福祉計画の進捗状況について

資料を基に事務局より説明後、委員から意見聴取を実施。

吉垣委員　・生涯学習支援課のボランティア研修については、終了後にどこかに登録するのか、研修が終了したらそれでおしまいなのかお聞きしたい。

事務局　・必ずこうしてくださいといったご案内はできませんが、たとえば識字ボランティアについては、受講者のうち８割くらいは来年度からの識字クラスや子育てグループへの参加意向があり、ご案内をしていきたいと考えています。

岡倉委員　・要望となるが、「地域人材コーディネート機能の充実」について実績の書き方がわかりづらい。こうしたことをやって、こういうことを図ったというような記載にしてほしい。

依田委員　・麻生区社会福祉協議会（以下、区社協）との連携に関して、今年度の動きについてもう少しお話をお聞きしたい。

事務局　・今年度は民生委員児童委員の一斉改選もあり、様々な意見交換をしております。

依田委員　・地域から見ると、区社協と行政の事業は入り混じっており、それぞれの動きについて、有機的に結びついていく必要があるかと思う。その結びつきがそれほど進んでいないことを懸念しており、ぜひ踏み込んだ連携について考えてもらいたい。

事務局　・区社協からは本会議にも委員として参加いただいており、引き続き連携しながら事業を進めていきたいと考えています。

高橋委員　・区社協としても、事業委員会に区役所職員に参画いただいている。コロナ禍で事業の進捗が厳しい時期もあったが、今年度は事業を徐々に再開できている状況。次期の計画策定に向けては、擦り合わせの機会を持ちたいと考えている。

②　第７期計画策定スケジュールについて

資料を基に事務局より説明後、委員から意見聴取を実施。

岡倉委員　・第６期川崎市・各区地域福祉計画策定・推進指針については、令和２年５月に示されたようだが、そうした情報もスケジュールに記入してもらいたい。また、データに基づいて、課題分析をされているようだが、今回の地域課題の把握にあたって、地域の調査をされていると思うが、新しい項目を入れたなどの例があれば教えてもらいたい。

事務局　・次期計画の策定指針については、前回と同時期頃になるかと思いますが、本庁から連絡があり次第お知らせします。また、次期計画策定にあたり、地域課題の抽出については、新たに発生した状況や課題などを盛り込んでいくとともに、現在実施している「地域福祉実態調査」から見えてくるものもあるかと考えています。
・その他、地域情報交換会という形で町会等の声もお聞きしています。また、福祉計画の策定に向けて、庁内関係部署による作業部会を設け、各部署で把握している地域課題を共有したいと考えています。

伴委員　・ヘルパー事業所が少なくなってきているとケアマネージャーから聞いた。そうしたことに対して、市や区でバックアップすることなどを計画に盛り込めないのか。

事務局　・地域の課題には該当すると考えられますが、そのことに対して、現時点で区が独自に実施予定の取組はないため、計画に盛り込むことは難しいと思われます。

伴委員　・わかりました。

依田委員　・民間事業者に対して、行政から直接的に「増やせ」「減らせ」などとは言えないとは思うが、地域福祉計画の推進にとって、地域資源の量は、重要な要素であると思う。「自分の住む地域に入居系施設がもっとあれば、もっと安心して生きていける」など、住民が地域のことを認識して住民同士で話せるような素地をつくっていく必要はあるのではないか。
・区の一部地域において、訪問的なサービスが少ないとか、ケアマネージャーが足りないとか、地域課題になっている事柄があると思うので、そういうことを拾い上げて地域の中に投げ込んだらどうか。民間事業者も（サービスが）少ないと認識すれば、事業展開しようとするかもしれないし、様々な議論の仕方があると思うので、地域をより良くするための旗振りを考えてもらいたい。たとえば「地域ごとの安心プランをつくってみよう」といった運動の推進や、「ちいきのちからシート」を活用して安心して暮らせる街かどうか話しあう機会を持つのも良いのではないか。
・現時点で実施予定の取組がないことは理解したが、第７期において行政がそうした地域課題（の解決）に介入していけるような仕組みを盛り込んでいけると良いと思う。

③　次期計画策定に関する意見交換
資料を基に事務局より説明後、委員から一人ずつ意見聴取し、村井委員から総括。

河村委員　・（地域福祉計画について）「あまり馴染みがない」という声があったとのことだが、具体的な理由があればお聞きしたい。

事務局　・そもそもご存知ないのか、知っているが読んだことがないというところなのかはわかりませんが、福祉計画がとっつきにくいところがあるのかもしれません。

河村委員　・障害がある方の支援をする中でも、情報提供が課題となっている。情報を得たい人が、情報を取ろうとする際のお気持ちも大事なように思う。同じような課題があるの

かなと感じているので、情報発信する方法について、皆さんとより良い形を目指していければと考えている。

吉垣委員　・民生委員児童委員協議会（以下、民児協）では地域包括支援センターと協力して、町会・自治会の方を招き地域情報交換会を行っているところだが、考えてみると地区社会福祉協議会（以下、地区社協）の方にも参加してもらっても良いのかなと思った。

森委員　・圏域ごとの概要に関連して、昨年、各民児協において活動強化推進ということで、町会・自治会に係わる自分たちの課題を抽出したが、そのあと町会・自治会さんとの情報交換の機会が持てていない。新しい委員も入ったのでこれから行っていきたい
・社会福祉協議会（以下、社協）が参加されていないことも気になるので、これから連携していけたらと思う。

鈴木委員　・社協の話が出ていたが、私は市社協にも一時顔を出していたが、以前から役所と一緒にやればいいのにと思っていた。
・政府に言うべき話かもしれないが、年金が引き下げられ、長年働かないといけなくなり、町会・自治会も成り立たなくなるのではないかと懸念している。若いお母さんたちも働くことが奨励されて子ども会に人員が集まらず、町会で子ども会をやめてしまうところがあるし、ＰＴＡもやめようという動きもある。子ども会やＰＴＡがなくなると、集団コミュニケーションを学ぶ場がなくなり、町会のなり手がますますいなくなってしまうのではないか。
・ヤングケアラーや母子家庭の貧しい子どもたちに対しては、子ども食堂を開くとか、生活困窮者を支援できたら良いなと思うが、なかなか難しい問題だと感じている。

岡倉委員　・冊子の構成については、冊子の中で「あさお福祉計画」という文言や「第６期麻生区地域福祉計画」という文言が混じり、構成や用語がわかりにくいので、ひと工夫してもらいたい。
・先ほど質問があったヘルパー事業所の件については、麻生区地域福祉計画の領域なのかが気になった。領域についてどのように整理するのかも明確にしてもらえると、これから検討するにあたって考えやすくなるのではないかと思う。
・また、第５期計画で 51 あった事業数が、第６期で 30 になっている。市や他区はもっと多いので、これ以上減らさないでほしいと思う。減らすのであれば、理由も説明してもらいたい。
・圏域ごとの概要については、地域によって高齢化率に差異があるようなので、区で統一的に実施するのではなく、高齢化率が高い地域に対してモデル実施のようなことができたら良いかと思う。
・質問になるが、地域みまもり支援センターに地域とのつながりということで職員が配置されているようだが、職員と地域住民の相談役として、コーディネーターを配置するという計画はないのか。また、地域包括ケアシステムの構築を目指す中で、来年度あたりで区の体制の変換があるのか聞きたい。

事務局　・コーディネーターについては、他都市事例はあるようですが、本市では配置する計

画はないところです。

岡倉委員　・以前、村井委員からお話を伺ったような記憶がある。

村井委員　・高齢者が主な対象となるが、生活支援コーディネーターのことだろうか。あきる野市などでは、地域住民を中心とした推進員がいる。また横浜市では、地域活動交流コーディネーターというものを独自財源で配置しているようだ。

事務局　・区の組織変更については、大きな変更ではありませんが、児童相談所との連携強化のために地域支援課に人員配置が予定されています。

伴委員　・麻生区は高齢化率が市で一番高く、計画にどう盛り込むかは別として、高齢化率をどうサポートするかは考えていく必要がある。住民が主役と言ったところで、高齢化率が高い地域では住民主体で事業を推進することは難しいように思うので、誰が事業を推進して、誰がサポートするのかということを考えたほうがよいのではないか。
・また、社協なのか区役所なのかわからないが、どこが旗振り役であり、どこに情報が集約されるのかを明確にした方が一層まとまりやすいと思う。

増田委員　・自分たちの暮らしに地域福祉計画がどのように関わっているのか、住民がわからないと、いくら計画を立てても、担い手や地域活動に参加してもらえる人が集まらないのではないかと思う。福祉計画冊子については、わかりやすい形が求められていると思う。
・圏域に関しては、はるひ野や黒川あたりは若い世代も増えてきているかと思うので、そういう人たちをどのように地域の担い手として取り込むかということが、必要になってくるのかなと感じた。

岡部委員　・私が所属するあさお市民活動サポートセンターでは、登録団体に施設を提供しており、活動に利用いただいているが、ここ数年コロナの影響で活動を休止・解散する団体も出てきて、利用者が減少している実態がある。
・せっかく長年活動してきた団体が、継承されないのはもったいない気がしている。休止・解散した団体に対して、なんらかの働きかけをして、存続していける要素があれば手助けしていくことも良いのではないかと思う。そのためには他団体との連携や、メンバー募集についてサポートすることなどが考えられるかなと思う。
・今後、行動規制が緩和される状況にある中で、計画項目の中でコロナ禍による阻害要因というものがあるのかないのか。あるとすればそれを払拭するような手立てがないか、検討していくのはどうかと考えている。

小山委員　・自分自身の状況を踏まえても、みんなが労働に追われて地域活動になかなか参加できないのではないかという鈴木委員の話が、心に残った。
・社会情勢が変わっていく中で、今までと同じ方法では難しいと感じているが、次期計画において、そうした実情を踏まえて、どのような取組をすれば地域福祉の推進につながるのか考えていきたい。

佐野委員　・地域ケア圏域ごとの概要を深めることは、大変良いことだと思う。地域それぞれに特色があり、抱える地域課題はそれぞれ異なると思う。寄り添ったものを考える上で

は、地域ごとに考えることが必要だろう。
・麻生区には、地区社協が２つしかない。他区では少なくとも５つあり、地域に一層根差しており、地域課題の解決に貢献できているように思う。
・麻生区の場合は１地区社協あたりで抱える人口が多く、事業を行うとしても区民全体を対象として取組を計画として実践している状況。いまの２地区を３地区にする話も出ているようだが実現していない。地区社協の存在が、もう少し強く出れば、より地域に根差したものができるのかなと感じている。
・大きく変えるのではなく、既存の組織である町会連合会や民生委員、地区社協などが垣根を越えて情報共有できればと考えている。町会と民生委員とが仲が良いところもあるが、うまく情報共有できていないところもある。地区社協の事業としても、圏域ごとの取組などを行うことができれば、もう少しお役に立てるかなと感じる。
・区として施策・計画をつくっても、地域住民までなかなか届かないし、地域住民が抱える課題もなかなか行政まで伝わっていかない。その間の中間組織みたいな人たち、地域に寄り添った人たち、サポーター・支援員みたいな人たちの存在が多くあれば、その間の空白地帯の繋げ役として活躍してもらえるのかなと思っている。

依田委員　・地域ケア圏域に関して、柿生地区社協も大きなエリアであるが、組織を大きく変えるような検討はなかなか進んでいない。今やるべきこととしては、具体的な取組について圏域を意識して活動することが大切であると感じている。まだ答えは出ていないが、地域福祉計画に貢献していける地区社協でありたいと思う。
・次期計画の重点項目については、書き方を大きく変えて欲しいと思っている。文字が多すぎるように思うし、構成も抜本的に変えてもよいのではないか。事業の側から説明する形ではなく、読み手の側から考えて、地域住民が読みやすいように視点を変えるも大切かと思うので、チャレンジしてもらいたい。
・重点項目を定めるにあたり、「なぜそれが重点項目なのか」ということを十分に吟味し、わかりやすくしてほしい。ただテーマを並べて、それぞれにがんばろうという形では力が集まらないので、たとえば「なぜ『認知症にやさしいまちづくり』なのか」ということについて、物語をわかりやすく記載できたら良いのではないかと思う。また、キャンペーン的、あるいはキャッチコピー的な取り上げ方ではなく、何を達成しようとしているのかを具体的に記載していく方が望ましいだろう。それに伴う冊子の構成については、是非表現など工夫してもらえたらと思う。
・また、重点項目についてこれから検討していくということだが、２点考えてもらいたいことがある。ひとつは、日常生活圏域をベースにこの町をつくっていくのだから、各保険福祉関係あるいは市民活動関係の団体のエリア分けを、どう揃えるのかというテーマを掲げて、なるべくそれがすっきり整理されていくように、ここ何年かをかけて取り組むということができれば良いと思っている。10 年以上地域でも色々な議論が出ているが進んでいない。それでは地域活動が進まないと実感しているので、是非各団体のエリアを揃えていくことにチャレンジすることが重要かと思う。もう一つは、コミュニティ施策と地域包括ケアシステムとの関係について、きちんと連携させた形で記載されるとよいと思っている。

髙橋委員　・地域福祉計画については、区民が自分たちの地域を良くするための計画づくりということで、区社協の地域福祉活動計画と視点を同じくしている。作成スケジュールもあるかと思うが、計画策定の過程で、なるべく多くの方が参画できる場面を設けていく工夫ができるとよいかと思う。

・地域ケア圏域について、他区では地区社協エリアで分けられているが、麻生区では民児協エリアを活用しているので、そこに地区社協に属する方たちの様々なネットワークもかけ合わせていく形で、取組が進められると良いと感じている。

・地域で抱える課題はそれぞれに異なるが、地域でなかなか解決が難しい部分においては、区域や広域でサポートすることを考えていく視点もあるとよいかと思った。

村井委員　・総括として資料ごとに意見を申し上げる。

・資料１については、昨年度の同時期と並べて推進状況を見ていくと、更なる注力が必要かどうかや、想定以上に成果が出ているなど、状況がわかって良いだろう。

・資料２については、計画策定の根拠となる調査については、区民のニーズや生活実態をどこまで把握できるかが重要な要素となる。一方で、定点観測という考えもあって、経年変化を見るためにこれまで行った調査と項目を揃える部分もある。また新しいニーズや、今後の福祉施策を行うための戦略上の根拠として必要となるデータの収集という視点が出てくると思う。そうすると、例えば「ちいきのちからシート」の質問項目をアンケートに組み込んでみると、エリアごとに分析することができるかもしれない。また、「人々の協調性の豊か度」を測るアンケート項目などを盛り込んで、麻生区としてソーシャル・キャピタル（地域に根ざした信頼や社会規範、ネットワークといった社会関係資本等）の充実度を測定することができれば、麻生区が他市他区と比較してどのような位置づけになるか見えてくるだろうと考えられる。質問項目的には多くなってしまうが、質問内容としては平易で回答も難しくないので、ソーシャル・キャピタル指標について考えていくことも大事かと思う。

・資料３の地域ケア圏域に関しては、区をひとつの大きな地域としてではなく、圏域ごとに捉えるということで、大きな転換になるかと思う。住民のイメージに近い課題が地域課題となるため、区域の課題よりも、より身近な問題として認識してもらえるだろう。理想形としては、町会・自治会単位で福祉計画を事業計画の中に盛り込み、福祉課題を自ら考え取り組んでもらい、対処が難しい部分については専門機関へ相談しサポートしてもらうという体制が、いつかできたら良いかと思う。

・ただ、すぐにというわけにはいかないので、まずは地域ケア圏域というものに対する福祉文化を形成することが大切だろう。圏域の認識を多くの人に理解いただくためには、圏域におけるキーパーソン等を巻き込んで、シンポジウムや話し合いを続け、圏域ごとのアセスメント、地域の強みを明らかにして、地域住民にフィードバックしていく。「この圏域にはこういう強み・弱みがある」ということを、圏域に住む人が強く認識することによって、はじめて自分の所属する地域に強み弱みがあるという気付きが生まれてくる。そこから興味をもって、協力・参加したり、いずれは主体となってくれると良いかと思う。

・重点項目について。地域共生社会づくりという考え方のもとで法改正等も進んでお

り、地域共生社会と地域福祉計画については、明確に関係が示されているので、地域共生社会づくりを踏まえた上で、次期計画策定を行った方がよいだろう。国がどういう戦略で地域づくりを進めていくのかを踏まえ、それを受けて川崎市や麻生区がどうしていくのかという全体の構造を明らかにしないと、わかりにくくなるかと思う。

・成果指標については、やはり数字で出せるところは数字で出し、具体的な成果がイメージできるようにした方がよいだろう。計画をつくって終わりではなく、策定時にどんな地域になっているのかということを考える、評価方法も含めて作成することが望ましいだろう。

・冊子の内容や構成については、誰が読み、どう行動してほしいのかという明確な狙いが必要だろう。区民を対象とするなら、区民が主体となって読んでもらうための表現を一貫してやるしかないが、読んでも啓発で終わってしまうと行動が伴わないだろう。広報には、知識を上げる広報、共感と賛同を得る広報、意見をもらう広報、参加・協力の呼びかけ、仲間になることを呼びかける広報の５段階があるが、それぞれのところでどこまで呼びかけられるか。具体的な行動を呼びかけていかないと、総論賛成だが各論はよくわからないということにもなってしまうかと思う。

・また、高齢化率の話も出ていたが、福祉分野だけでは解決できない課題かと思う。若い世代を誘致するだとか、学生を呼び込んで集合住宅に住んでもらいコンシェルズのような役割を担ってもらうとか、福祉だけに留まらず、まちづくり戦略としても大きな課題であるだろう。

吉松委員長　・他の委員の方の発言を受けて、ご意見やご質問があればどうぞ。

岡倉委員　・自助・互助・公助の考え方を、計画の中に入れることも検討してはどうか。

（２）地域包括ケアシステム推進に向けた取組について

・あさお希望のシナリオプロジェクトの進捗状況について

資料を基に、事務局より説明後、意見聴取を実施。

岡倉委員　・さきほど村井委員から、「高齢者問題への対応も、まちづくりの視点も踏まえて考えたらどうか」という発言があったが、若い人と高齢者とのマッチングが、ソーシャルデザインセンター（以下、ＳＤＣ）でできたらいいなと感じた。区民がＳＤＣに相談に行くのではなくて、ＳＤＣが高齢者の多い地域に出ていって、課題を解決するような方向で活躍してもらえたら。

（３）その他

・事務局から「女性がん講演会」、「区役所での献血」について案内

３　閉会

14 時 40 分閉会